

第9期総合介護市民協議会（令和7年度第2回） 会議概要

日 時：令和8年3月3日（木） 14：00～15：27

場 所：近江八幡市役所 3階 特別会議室1

出席者：安田会長、塚本副会長、柴田委員、真部委員、藤居委員、藤田委員、三崎委員、北川委員、山本委員、深尾委員、坂井委員、廣瀬委員、小林委員、東森委員

事務局：介護保険課・長寿福祉課、JMC株式会社（委託業者）

傍聴者：なし

1. 開会

事務局	<p>皆さん、こんにちは。それでは定刻となりましたので、只今より令和7年度第2回近江八幡市総合介護市民協議会を開催いたします。本日は大変お忙しいところご出席を頂きまして誠にありがとうございます。よろしくお願い致します。</p> <p>それでは協議に先立ちまして、1名、委員の変更がありましたのでご紹介をさせていただきます。近江八幡市民生委員児童委員協議会の「中谷正一」委員が辞任され、新しく「三崎克己」委員ご就任頂きました。新しくなられた委員の任期につきましては、前任委員の残任期間となり、およそ1年になりますが、よろしくお願い致します。</p>
委員	(委員より自己紹介)
事務局	<p>それではまず、配付しております資料について確認をさせていただきます。</p> <p>(資料1) 令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況について (資料2) 第9期計画の取組状況について (資料3) 高齢者福祉部会の協議内容について (資料4) 医療連携部会の協議内容について (資料5) アンケート調査の概要と結果 (資料6) 近江八幡介護以外事業所調査概要(案) (資料7) 令和8年度総合会議審議協議会運営スケジュールとなります。</p> <p>資料が不足をされている方はおられませんでしょうか。</p> <p>それでは、お手元の会議次第に基づいて進めさせていただきます。まず、はじめに、会長よりご挨拶をお願い致します。</p>
会長	<p>皆さんこんにちは。初めて新庁舎に入りまして、気分良くさせてもらっております。委員の先生方におかれましては年度末で本当に色々な会議があったりして忙しいと思います。天候も寒暖差があったり雨が降ったりして大変な中、多数の委員の先生方にご出席を頂きまして大変嬉しく思っております。よろしくお願い致します。今回、新しい委員の方に入って頂き、少しでもより良い検討が出来ればと思っております。</p> <p>スケジュール表にもありましたが、来年度は会合等も多く、委員の先生方も色々ご負担もあって大変だとは思いますが、より良い計画が出来るように力を貸して頂ければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、早速、協議に移らせて頂きます。近江八幡市介護基本条例第14条第2項の規定により、協議会の議長は会長が務めることとなっております。会長よろしくお願い致します。</p>
会長	<p>近江八幡市介護基本条例第14条第2項により、議長を務めさせていただきます。議事の</p>

進行につきまして委員の先生方のご協力をよろしくお願い致します。では、最初に事務局から委員の出席状況について報告をお願い致します。

事務局

ご報告を致します。総合介護市民協議会の委員数は17名です。この内、高橋委員、村北委員、中村委員の3名より、今回、事前に事務局へ欠席の報告を頂いております。只今の出席委員数は14名です。したがって、近江八幡市介護基本条例第14条第3項の規定による定足数である過半数の9名を超えておりますので、本協議会は成立していることを報告申し上げます。

会長

只今、事務局より、本協議会は成立している旨の報告がありましたので、次第に基づいて進行をさせていただきます。本日は報告が7点となります。今年度は第9期総合介護計画の中間年度にあたりますが、今回は「次期計画策定に向けた各種調査の結果報告」に時間的な重きを置きたいと考えますので、資料1の「令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況について」と資料2の「第9期計画の取組状況について」につきましては、重要なポイントのみの報告とさせていただきますようお願いいたします。

(意見等無し)

会長

はい、それではまず、資料1「令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況について」近江八幡市の高齢者・認定者の状況について報告をお願い致します。

事務局

よろしくお願い致します。それでは、お配りしております資料1「令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況について」本市の状況を報告させていただきます。昨年10月2日に開催しました第1回総合開講市民協議会での報告内容と大きく変わりは無いため、ポイントを絞った報告とさせていただきます。

最初の2ページの「1、人口ピラミッドについて」は省略をさせていただきます。続きまして3ページをご覧ください。「2計画と実績の比較」①65歳以上人口と高齢化率」について。令和7年度の65歳以上人口と高齢化率について、各年9月末時点の推移を示したグラフです。ここ5年間、高齢化率はほぼ28.0%で変化が無く、横ばいの状態が続いております。

続いて、「学区別高齢者数・人口（令和8年1月30日現在）」の図をご覧ください。市全体での高齢化率は28.0%ですが、小学区ごとに見ると島小学校区は41.9%、馬淵小学校区は34.5%と高齢化率が高いのに対し、金田小学校区では22.8%と低いなど、地域によって高齢者の占める割合には大きく偏りがあることが伺えます。

次に、4ページをご覧ください。「第1号被保険者（前期・後期高齢者）の推移（年度末）」について。図の通り、ここ5年ほどで75歳以上である後期高齢者の割合が大きく増加し続けています。これは、団塊の世代が高齢者となり、さらには後期高齢者となっているためと考えられます。

続きまして、「② 要支援・要介護認定者数と認定率」について。認定率（第1号被保険者数に対する要支援・要介護認定者数の比率）はここ数年ずっと14.7%前後で横ばいに推移していましたが、令和5年度から令和7年度にかけて14.7%から15.9%へと増加傾向が続いています。

次に、5ページ「③ 要介護度別認定者数と受給者数の推移」についてですが、こちらは前回の報告時とほぼ同内容であるため、省略させていただきます。近年、特に要支援・要介護1の認定者の増加もあり、認定者数および受給者数の増加が続いております。

6ページをご覧ください。「④年齢構成別の認定者数」について。年齢構成別の要介護（要支援）認定率をみると、65～74歳の認定率が3.2%であるのに対し、75歳以上の方々の認定率は24.3%と高く、特に80歳を過ぎてから認定率が急上昇していることが分かります。先ほど75歳以上の人口層が増えていると報告した通り、後期高齢者が増えるに従って要介護認定を受ける割合も増えるため、今後も要支援・要介護認定者数は増加することが予想されます。資料1の報告は以上となります。

会長	<p>それでは、只今、事務局から報告がありました。今の件につきまして、質問等ございましたらよろしくお願ひ致します。</p> <p>(質問等無し)</p>
会長	<p>よろしいでしょうか、また質問等ありましたら後ほどにして頂けたらと思います。それでは次に資料2「第9期計画の取り組み状況について」事務局から報告をお願ひ致します。</p>
事務局	<p>それでは、資料2についてご説明させていただきます。本計画では、「基本目標」の達成に向けての「施策の方向性」ごとに「市が目指すこと」を設定し、また、どの程度実現できたのかを確認するための「指標」を設定し、計画の効果的な進捗管理及び評価・検証につなげます。今回は時間も限られますので、4つの「基本目標」を達成するための基本施策に対する今年度の実績、取組状況について幾つかポイントを絞って報告いたします。それではまず、長寿福祉課より報告をお願いします。</p> <p>よろしくお願ひ致します。まず、資料2の基本目標1の中の「1、相談体制支援体制の強化」については、地域包括支援センターの運営を通じて取り組んでおります。「2、日常生活を支援する体制の整備強化」については、生活支援体制整備事業を軸に、高齢者の生活支援や社会参加を促す取り組みを推進しております。「3、認知症施策の推進」については、認知症の啓発や早期発見、早期対応に向けた取り組み、認知症の人や介護者を支える体制の構築に向け、多くの事業を実施しております。認知症施策については認知症施策推進会議を開催し、周知の取り組みの評価を実施し、また、今年度は中期計画での実証施策推進計画の策定に向け検討いたしました。「4、在宅医療介護の連携推進」につきましては、他職種連携の取り組みや廃業支援の取り組みを推進しております。在宅医療介護連携事業については、医療連携推進会議で9期の事業評価を実施いたしました。</p> <p>3ページに移りまして、基本目標2の「健康作りと介護予防の推進および高齢者の活動支援」については、介護予防日常生活支援総合事業や一般介護予防事業を通じて、高齢者の介護予防に取り組まれました。基本目標3の「1、権利擁護の推進」については、主に高齢者虐待に対する対応やその予防に向けた取り組みを実施しております。また、近年認知症の方で判断能力が低下している人に対し、成年後見制度が適切に利用できるような利用促進に向けた取り組みをしております。以上です。</p> <p>続きまして基本目標4のところ、ページで言うと5ページにあたります。介護保険課よりご説明させていただきます。基本目標4、「施策の方向性：1. 介護保険サービス」の取り組み状況、特に計画にも挙げています通り、介護人材の確保・育成に取り組むことで介護サービスの充実にも繋がることから重要になってくる「滋賀県介護福祉人材確保緊急支援事業補助金」を活用した各種取り組み状況について報告をさせていただきます。</p> <p>市内の介護サービス事業所等で働く介護人材の確保のため、3つの取り組みを実施しました。1つ目の取組としまして、介護に関する入門的研修を実施しました。介護に携わる上で介護経験者に必要な基礎知識や技術を習得することを目標に令和7年10月11日に実施しました。33名による参加があり、受講の動機としましては「家族の介護のため」が最も多く、この他に「職場説明会への参加のため」や「介護の資格取得」を目的に受講した方もおられました。アンケートの結果、入門的研修を受講したことで、8割以上の方が以前よりも介護に対するイメージが肯定的になったと回答し、また6割以上の方が介護について自分にもできることがあると感じるようになったという回答があり、在宅介護に対する不安の解消に役立てることができました。</p> <p>また、令和7年12月6日に、過去に入門的研修を受講されたフォローアップを目的とした研修を開催し、15名の参加がありました。内容は前回の復習を踏まえた介護の基礎知識や、いろんな介護場面での対応方法についての研修であり、参加者の満足度も高く、介護に対する意識の醸成も図れる結果となりました。次年度も引き続き実施を予定しております。</p> <p>2つ目の取組としまして、介護看護合同職場説明会&面接会こちらは令和7年10</p>

月 25 日に開催しました。今年度は市内の法人と共同会開催したところ 14 名の参加者がありまして、うち 5 名の採用に繋がることができました。採用にまで至った人数は昨年度の 2 名から比べますと 2.5 倍に増えましたが、参加者数がここ数年減少し続けているため、実施方法の見直しを検討しつつも、次年度も継続して実施していくことで、安定した人材確保に繋がるよう取り組んでいきたいと思っております。

3 つ目の取り組みとしまして、1 回目のスキルアップ研修を令和 7 年 9 月 19 日に実施しました。要介護施設従事者などによる高齢者虐待防止をテーマに、虐待防止の基礎知識の習得や演習等を行い、27 名の参加がありました。また、2 回目のスキルアップ研修を令和 8 年 3 月 12 日に実施予定です。2 回目は感染症対策の基本および緊急災害時における感染対策をテーマに、現在 12 名の受講希望があり、介護現場で必要とされる知識の習得と理解を深めることで、質の高い介護サービスの提供の一助とすることを目標として実施いたします。次年度も引き続き、介護職員の関心のあるテーマについて意向調査をした上で研修会を開催し、スキルの向上に繋がる研修会になるよう取り組んでまいります。続きを長寿福祉課お願いします。

最後に基本目標の 4、高齢者福祉サービスについて説明させていただきます。本市では高齢者福祉サービスとして資料の 7 ページ目 8 ページ目に記載の配食サービスなどの事業を実施しております。それぞれの実績については資料に記載の通りです。1 月に実施しました高齢者福祉部会においても、事業の成果と課題について報告をしており、特に在宅高齢者紙オムツ支給事業については事業の見直しについて審議を行っております。以上が資料 2 の報告になります。

会長 はい、ありがとうございました。また副会長もスキルアップ研修で講師をして頂きましてありがとうございました。それでは、事務局から説明がありましたけれども、この件に関しまして質問等ございましたらよろしくお願い致します。

副会長 私から一つ質問させていただきます。最初に報告がありました基本目標 1-2 の中で、結果効果のところ、シルバー人材センターに関して就労による賃金を求める人以外に、居場所や通いの場を求めて登録される方がいるということですが、これは自分で生きがいを持って就労していた方が、体調を崩したりしてシルバーの仕事には就けないけれども、少し周りの人との繋がりは維持したいという希望なのか、ある意味、シルバー人材センターにこれを求めて新規で登録されるのか、内容をもう少し教えて頂けないでしょうか。入口部分としてとても大事なところだと思います。要介護認定者・要支援認定者が増えていく中において、予防的な取り組みで重要な視点と、それをどう掘り起こしていくのかということについて、その希望者がそこに期待している部分があるとするならば、どういう入口でそうなったのかというのは非常に興味を持ったところです。少し参考に聞かせて頂けたらと思います。

事務局 本日はシルバー人材センターの委員が欠席でありますので、私どもでお伺いした内容で回答させていただきます。これまでシルバー人材センターにおける高齢者の就労という部分で、賃金を頂いて働かれる方の支援を中心にしておられますが、高齢者の希望が二極化してきているとおっしゃっておられました。賃金を得るために就労して登録をしたいという方と、通いの場という居場所的な側面を求めて登録をされる方が増えてきており、そういった方のために会費を抑えめにして、集まる場所の提供や趣味活動をシルバーとしても支援する方向にもシフトしていく必要があるのかなというシルバー人材センターとしてのお考えをお持ちです。そういった二極化といいますか、賃金を求めるだけではない、高齢者の活動、繋がりを求める機会や場所を求めておられる高齢者が増えてきていると伺っております。

副会長 ありがとうございました。とても良い事ですのでここは少し PR して、そういう人たちを掘り起こしていくことは重要と思えますし、シルバーの仕事が幅広い部分も含めて健康維持を含めた取り組みであるということも一つの流れとしてありなんだなと思いました。その辺は何か介護予防事業と、特にここでいうところの介護予防生活支援体制整備事業と合わせて何かコラボレーションできると良い感じがしました。今後期

待したいと思います。

会長 ありがとうございます。関連する団体出身の委員の先生もいるかと思いますが、その他質問等ございますでしょうか。

(質問等無し)

会長 よろしければ次に行きたいと思います。それでは次に資料 3、高齢者福祉部会の協議内容につきまして、事務局から報告をよろしくお願い致します。

事務局 手元の資料 3、近江八幡市総合介護市民協議会、高齢者福祉部会と書かれたものをご覧ください。令和 8 年 1 月 13 日に高齢者部会を開催致しました。今回新たに民生委員の委員様ご参加を頂いております。次に、開示の概要の部分になりますが、高齢者福祉部会では報告事項として 2 点、審議事項として 2 点ご審議を頂きました。まず報告事項の 1 点目は第 9 期総合介護計画の取組み状況についてです。こちらについては第 9 期計画の取組み内容のうち、高齢者福祉部会に関する部分について実績を報告させて頂いております。本日の資料 2 とも重複しております。また 2 点目は、高齢者生活支援サービスについてです。次年度に事業の見直しを行う予定である高齢者補聴器購入費助成事業と緊急通報システムについて変更内容の報告をさせて頂きました。次に審議事項についてですが、1 点目は、介護用品支給事業に係る今後の方向性についてです。本市で実施しております在宅高齢者紙オムツ等支給事業について、昨年度のご意見を受けてアンケート調査を実施いたしましたのでその結果を報告しています。委員の皆様から頂いたご意見をご報告いたします。

まず一つ目のご意見としてはアンケート結果を見ても、物価高騰の影響で助成金が足りないという意見もありますので、助成金を下げると困る人も増えるのではないかと、また、市町ごとの基準ではサービスが行き届かないことを危惧するというご心配の声や、国の方針と近隣市町の動向を踏まえた上で慎重な判断が必要であるというご意見もいただいております。市の政策として状況を把握しながら方向性を決めていく必要があるため、負担感や家族への影響についても丁寧にアンケートをする必要があるというご意見もいただいております。本事業につきましては、国から事業廃止や見直しの検討を求められており、国や県内他市町の動向を注視しながら慎重に議論を進める必要があります。今年度に結論付けることはしないで、次年度に実施するアンケートで負担感や家族負担の影響も含めて、もう少し丁寧にアンケートをとる予定をしております。その結果に基づき、状況を把握しながら方向性を決めていくことで、実現可能な仕組みかどうかや、地域間で支援に大きな差が生じないようにするための規定なども踏まえながら検討を進めてまいりたいと考えております。

次に審議事項の 2 点目は、生活支援体制整備事業の取組み状況についてです。生活支援体制整備事業として実施しております、支えあい商助推進事業、ゴミ出し支援、移動支援の取組みについて、現状と課題、今後の方向性について報告協議を行いました。委員の皆様から頂いたご意見は資料に記載の通りですが支えあい商助推進事業については登録事業者数の少なさや、活用しやすい資料作成などの課題についてご指摘を頂いております。次年度に向けて、市民への認知度や効果を高めるための取組みを行っていきたいと考えております。

最後にその他事項についてですが、来年度は部会の開催を 2 回予定しております。1 回目の部会で先ほどの介護用品支給事業の見直し案について協議を行う予定です。資料 3 の協議内容についての説明は以上となります。

会長 はい。ありがとうございます。年初の忙しい時期に出席とか審議して頂きましてありがとうございます。事務局もお疲れ様でした。また内容もオムツなど市民の関心も高く高いところだと思いますので、そうしたことにつきましてもどう進めていくかについて丁寧に審議して頂いたと思い、感謝しております。それでは先ほどの説明につきまして、質問等ございましたらよろしくお願い致します。

(質問等無し)

会長

よろしいでしょうか。また後ほどございましたらお願いしたいと思います。それでは次に、資料4の方ですね。医療連携部会の協議内容につきまして、事務局から報告をよろしくお願い致します。

事務局

資料4をご覧ください。医療連携部会については、令和8年1月30日に認知症施策推進会議を開催し、2月13日に医療連携推進会議を開催しております。詳細については資料に記載しておりますので、要点のみご説明させていただきます。認知症施策推進会議では、9期中の取組の評価、10期計画に認知症施策推進計画を包含することの合意や、認知症施策推進計画の重点取組についてご協議頂きました。認知症施策推進計画策定に向け、認知症の人に限らず共生社会の視点でとらえることやサービス事業者のケアの質の向上に向けた取組、認知症バリアフリーに向けた取組についてご意見を頂きました。医療連携推進会議では、新地域医療構想を進め、2040年問題に対応していくためには、高齢者自身も状態に応じて適切な医療機関を選択して受診できるセルフケア力が求められる。そのためには、地域にある各医療機関の役割の明確化が必要であるとともに、互いの機能を把握・活用できる関係性を構築するために日常的に話し合いができる、顔の見える関係づくり、ネットワークづくりが一層重要になるといったご意見を頂きました。簡単ですが以上となります。

会長

ありがとうございます。こちら認知症の関心も高いところで、カフェについても昔は「開いているかどうか」といった調査報告だったと思いますが、今ですと、その内容や地域との関わり方にまで発展してきており、進化していると感じると同時に、今後もっと充実していくことにも期待していきたいと思いながら報告書を見させて頂いておりました。それでは、只今の説明につきまして、質疑、質問等ございましたらよろしくお願い致します。

(質問等無し)

会長

よろしいでしょうか。では次に、資料5。アンケート調査の概要と結果につきまして、こちらJMC株式会社様から説明の方をよろしくお願い致します。

JMC

JMC株式会社と申します。資料5の1ページをご覧ください。今回、今度の10期の計画を策定するために前回の協議会で4種類の調査票について皆様にご審議頂いたところになります。予定通り、その中の3種類、左側から介護予防日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、そして、介護支援専門員調査という3つの調査を既に実施したところでございます。今日はその3つの調査の結果についてご説明させて頂きたいと思いますが、だいぶ前の事になりますので、まず、3つの調査について簡単にどういった方を対象に調査をしたのかについてご説明させていただきます。

まず、介護予防日常生活圏域ニーズ調査、長いのでニーズ調査と呼ばせて頂きますが、こちらは比較のお元気な高齢者の方、ご本人に対して調査を行うものになります。要介護状態になる前の高齢者の方のお身体の状態ですとか、社会参加の状況といったところを中心に設問が設計されております。続いて、在宅介護実態調査につきましては、要介護認定を取られている方ということなので、要支援の方、要介護の方といったような少し介護が必要な方、高齢者の方を対象にした調査になります。続いて、介護支援専門員調査。これは市内と市外のケアマネジャーに対する調査になります。

では、具体的な結果についてご説明させていただきますと非常に多くの設問がありますので、今日は抜粋した資料になっておりますので、まず3ページのところを御覧ください。ニーズ調査の結果についてご報告致します。先ほども申しましたように、まだ介護はそんなに必要ではないお元気な高齢者に対する調査ですけれども、要介護状態になるリスクを調査から判定することができまして、この国の手引きに沿いまして、要介護状態になるリスクの状況を算出しております。8種類のリスクがありまして、まず自立の方、上の図を見て頂きますと、自立の方でリスクが多いが、認知機能の低

下、それから、鬱傾向、この辺りのリスクが多くなっているという形になります。その一方で、下の方の要支援の方のリスクは、運動器の機能低下、それから転倒が多くなっておりまして、自立の方はどちらかというと精神的というか覇気や認知機能的なリスクが課題で、要支援の方というのは運動器の機能低下、つまり、歩いたり立ち上がったりとところなんですけれども、そういったお身体の物理的などところのリスクがあることが見て取れる形になっております。また、3年前に同じ調査をしているのですが、3年前と比較しますと、調査で自立の人は運動器の機能低下、とじこもり、ADLの低下のリスクが減少しております。一方で認定している人は転倒リスクが増加しているという結果になっております。

では、次のページ、4ページをご覧ください。地域活動への参加状況というところで、こちらも8種類の地域の活動にどれぐらい参加されているのかをお聞きした設問の結果をまとめたものになります。月1回以上参加した人の割合というのをまとめておりますが、まず自立の方、上のグラフを見て頂きますと、最も多く参加しているのは収入のある仕事ということで、3割ぐらいの方が収入のある仕事に参加されています。一方、要支援の方、下の方のグラフは介護予防のための通いの場が最も多くなっておりまして、ここは3割ぐらいとなっております。前回と比べると、要支援の人の介護予防のための通いの場への参加率というのはかなり高まっておりまして、介護予防のための通いの場が普及してきているのを見て取れる結果となっております。

では、次の5ページ、外出状況というところをご覧ください。今回、3年前と比べて大きく変化してきたポイントの一つとして、外出状況がだいぶ回復してきた、皆様がより外出するように戻ってきた、コロナを経て色々と外出が難しかった状況からだいぶ回復してきたことがこちらのデータになっております。今回調査では、自立の高齢者は「ほとんど外出していない」人の割合は減ってきていますし、要支援の人も「ほとんど外出しない」という人の割合は減ってきたことが見て取れる結果となっております。

続いて6ページを御覧ください。これも似たような結果ですが、昨年と比べて外出回数の減少というところで、「外出回数が減った」という人が減った。減った人が3年前と比べると、減少したというところになっております。

では、続きまして7ページをご覧ください。少しテーマが変わりまして、地域包括支援センターの認知ということで、地域包括支援センターは知っていますか、についての設問になっております。全く知らないという方は、自立の人ですと4割、要支援の方ですと3割となっております。特に自立の方でそういう相談窓口があることを知っている、ですとか、エリアごとに設置されていることを知っているですとか、自分の住んでいる地域にどこにあるかを知っている方が3年前と比べると少しずつ増えておりまして、これも少しずつ普及が進んでいる状況かなというところが見て取れる結果となっております。

では、続きまして8ページを御覧ください。8ページは一時期とし手助けとしての支援活動への参加意向ということで、他の高齢者に対して手助けをする支援活動に参加してもいいですかとお聞きしている設問ですが、今回、「参加してもいい」という方が自立で少し増え、少しそういったところが活発になってきているのかなと見て取れる結果になっています。それと、この部分については地区によってもかなり差がありまして、島学区では「既に参加している」が1割ぐらいあり、他の学区に比べて多くなっていることが9ページに表として載せてあります。

続きまして10ページを御覧ください。10ページは認知症に関する相談窓口の認知ということで、認知症に関する相談窓口を知っていますかとお聞きしております。これは前回と殆ど変わらず、3割程度の方が知っている現状維持みたいな形になりました。

続きまして、11ページを御覧ください。認知症の対応、治療に関する知識ということで、認知症に関してどういうイメージを持たれているのかについてお聞きした質問になっております。その中で、早く対応治療をすれば進行を遅らせることができることについて、大体自立ですと7割、要支援の方ですと6割程度の方がご存知という結果になっております。これも特に大きく変化はありませんでした。

続いて12ページを御覧ください。認知症の人への適切な接し方の認知ということ

で、認知症の人への適切な接し方を知っていますかという設問になります。こちらも知っているという方は自立だと2割ぐらいで、要支援だと1割ぐらいですけれども、その割合が自立の方で少し3年前よりもアップした結果になっております。

続いて13ページを御覧ください。ACP 人生会議の認知ということで、ACPを知っていますかという設問につきまして、少し認知が進んできたという結果になっておりますが、名前も内容も知っている方は、まだ自立の方も要支援の方も1割以下ぐらいの方しかいない、内容も知っている人は少ないという状況になっております。

続いて14ページを御覧ください。ここから、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局ということについて資料が何ページか続いているんですけども、あまり大きな変化はなく、かかりつけ医がいる方というのが9割ぐらい。かかりつけ歯科医がいる人は大体6割から7割ぐらい。かかりつけ薬局がいる人は7、8割という結果になりました。

続いて17ページをご覧ください。生きがいの有無ということで、生きがいがありますかというところをお聞きした設問になります。大体、自立の方で7割、要支援の方で6割以上の方が生きがいがありますという結果ですが、自立の方は前回よりも増えている、生きがいがある方が増えている結果になっております。

18ページを御覧ください。地域での様々な活動に参加していきたいですかという設問になっておりまして、ぜひ参加したい、参加してもいい、既に参加している、という方を合わせますと参加意向がある人は、自立の高齢者で6割、要支援者が5割となっております。

19ページをご覧ください。成年後見制度の認知ということで、成年後見を知っていますかという質問なんですけれども、このような制度を知っている方は、自立は3割、要支援は2割ということであまり前回と変化はなく、3割、2割程度の方が知っているという結果になっております。

20ページを御覧ください。20ページは商助の認知ということで、商助について知っていますかという設問になります。これは今回から初めて入れた質問になりまして、この商助の取り組みは近江八幡市の特徴的な取り組みであり、他の市では無いものですが、結果的には残念ながら1割程度の方しか知らないということがありまして、まだご存知で無い方が多いという結果になりました。ただし、居住地区別で見ますと、島学区などでは知っている方もいらっしゃる、エリアで違いがある結果となっております。

続きまして22ページをご覧ください。22ページは、地域の人にしてほしい支援ということで、地域の方にお手伝い頂くとしたらどういう事をして欲しいですかという設問になります。自立の高齢者の方は「特にない」が最も多いですが、次いで「外出の際の送迎支援」そして「買い物」「救助」の順番で続いております。要支援の方も「外出の際の送迎支援」が最も多く、次いで「特にない」「買い物」という結果なので、そういった送迎とか介護についてご希望があるという結果になっております。また、これもエリアによってかなり違いがあり、例えば、島学区だと買い物支援が多くなっているとか、違いが見られる結果となっております。以上がニーズ調査の結果となっております。

25ページからは在宅介護実態調査の結果についてご説明いたします。在宅介護実態調査では、まず家族からの介護介助の有無というところをご覧ください。どれぐらい普段の生活で家族等から介護介助がありますかという質問をしたところ、大体8割ぐらいの方が「ある程度ある」という回答でしたが、今回は、「無い」の回答が2割ぐらいで、前回よりも増えていました。また、ほぼ毎日あるという回答はかなり前回と比べて減った結果となりました。

続きまして26ページをご覧ください。家族の方、家族の介護者がいる方に、家族の介護者の方は働いているかについて聞いた質問がありまして、「働いていない」という方が大体5割ぐらいで、残りの4割ぐらいの方は「働いている」、さらに、その内の2割ぐらいがフルタイムで働いている方という結果となっております。

27ページをご覧ください。就労しながら介護をされている方について、今後も続けていけそうか質問した結果が27ページになりまして、「問題はあるが何とか続けていける」方が6割程度、「問題無く続けていける」方が1割程度、「続けていくのはちょ

っと難しい」という方は大体2割程度という結果になっております。ここは大きく変化はなく、大体そのような形で推移してきております。

28 ページが在宅介護調査の最後ですけれども、家族の介護者が不安を感じる介護は何ですかということをお聞きしております。今回、すごく前回よりもたくさん不安を感じることを挙げてらっしゃるように一見見えますが、これは前回、無回答がすごく多かったんですね。5割ぐらいの方が無回答。一番下が無回答ですが、5割ぐらいの方が無回答だったということもありまして、ここは参考値という形にはなってしまいますのですが、今回の結果で見ますとやはり排泄に関すること、それから、認知症への対応といったところが多く不安だというふうに、お声をいただいているという結果になっております。以上が在宅介護の結果となります。

最後にケアマネジャー調査の結果についてご説明致します。まず、29 ページをご覧ください。ケアマネジャー調査では、介護支援専門員として今後も働きたいですかという質問をさせて頂いたんですけれども、「働きたい」とお答えになる方が7割ぐらいですが、「働きたい」「どちらかといえば働きたい」という二つの選択肢があるんですけれども、今回「働きたい」という回答が減ってしまいまして、「どちらかといえば働きたい」という回答が増加した結果となっております。どういったところが大変なのかという設問もありまして、それが30 ページのところになります。これは介護支援専門員業務での課題というところですが、やはり「事務が多い」というのが6割、「経済面での調整が難しい」が5割、「制度にまたがる支援調整が難しい」というのが3割程度というふうが続いているという結果になっております。

そして31 ページを御覧ください。ケアマネジャー様が介護保険のケアマネジメントをされていますが、それ以外のケアマネジメント業務以外の支援にどういったものがあるのかについてお聞きしますと、今回は「受診同行」というのは前回も同じく多かったんですが、「介護保険以外の各種申請」がかなり前回よりも多くなっていて、介護保険以外の業務でかなり負担があるのかなといったところを見て取れる結果となっております。

最後のページが32 ページを御覧ください。32 ページではケアマネジャーから見て、市の高齢者の支援の状況ってどうでしょうかとお聞きした設問になっております。充実しているか不足しているかについてお聞きしているんですけれども、「充実している」と答えられた割合をグラフにしております。一番今回高いのは在宅療養の支援体制のところですね、ここが一番高い結果になっておりました。前回と比べますと、「介護予防の取り組みが充実している」と答えた割合が低下した結果になっております。本当に駆け足ではございましたが、3 調査の概要と結果についてご報告させて頂きました。私からは以上になります。

会長

ありがとうございます。予想通りというものもあれば、「あつ」というものもあつたりしまして、またケアマネジャーもご苦労されているなっていうことも理解できてありがたいなと思って聞かせてもらいました。ただいま、JMC 株式会社様より説明して頂きましたけれども、この件に関して質問等ございましたら、よろしく願い致します。

委員

今の説明の中の島学区というのが、手助けの支援に対してもう「既に参加している」とか、商助を「知っている」とか「まだ利用したことはないけど、よく知っている」というようなことがとりわけ多いのですが、島学区の人は何か特別な取り組みをやっておられるのでしょうか。

事務局

商助の部分に関して回答させて頂きますと、買い物支援の部分で島学区は周りに商店があまり無い地域でもありますので、平和堂のホームサポートですとか、そういったところを先駆けて実施をしてきた経過がございます。ホームサポートも元々届いていない対象外の地域ではあったのですが、コミュニティセンターまでなら運びますよというような形で協議をさせて頂きまして、コミュニティセンターまで運んだものをそれぞれの家まで運ぶのは地域の方にしてもらいますけれども、コミュニティセンターまでは買い物支援という形で運びますよ、というような形で積み重ねてきた経過が

ありますので、大分支援を認識して頂いているのかなと、商助の取り組みに関しては若干知っておられる、そういう回答が高くなっている要因というふうには考えております。以上です。

会長 はい、ありがとうございます。その他、質問等いかがでしょうか。

委員 すいません。28 ページですか。軒並み前回の調査より、今回の調査の方が悪くなっているような感じを受けるんですが、これの理由を聞かせて頂きたいことと、あとちょっとグラフが見づらいので、今回調査、例えば黒抜きとか前回調査を白抜きにしてもらえれば見やすいと思います。それと、32 ページの介護予防の取り組みっていうのは前回より今回がすごく悪くなっているような感じがするのですが、それもお聞かせ頂きたいと思います。

JMC まずこちらのグラフについて、白黒に、模様が付いていてわかりづらくなっていて申し訳ありません。ありがとうございます。内容のところですが、まず、28 ページの家族介護者が不安を感じる介護というところで、今回の方が全体的にすごく不安に感じている方が多くなっているというお話についてですが、前回、無回答の方が5割で、今回は6%ということで、すごく大きい違いがありまして、本当に不安に感じている人が増えた部分もあるかもしれないのですが、例えば、前回の調査票が少し答えづらいとか、わかりづらい感じになっていて、それにより皆さんが答えられなくて無回答がすごく多かった可能性もあるかなと思います。今回は普通に答えて頂いたので、日中の排泄が心配であるとか、そういう形で答えられるようになったところが一つ考えられるかなと思います。今後ですけれども、要支援・要介護度ごとに例えば要介護が軽度・中度・重度って色んな方がいらっしゃると思うので、軽度・中度・重度ごとに見た時にどういうふうになっているかや、あと認知症の自立度、度合いについてもデータをくっつけることができますし、分析ができるので、認知症の度合いごとの分析をしていく予定にもなっていますので、前回からっていうところでは少し難しいところはあるんですけれども、どういった方がどういうことで不安に感じておられるのかについては、より詳細な分析ができるかなというふうには考えております。

事務局 引き続き、32 ページの介護支援専門員から見た、市の生活支援の状況で、介護予防の取り組みの充実度が低いのではないかとということですが、資料に記載の通り、市の介護予防の取り組みについては経年的に実施しておりまして、特段この9期に入ってから何かをしなくなった、というよりもむしろ増やして介護予防の取り組みをしているところです。そのあたりの効果について、介護支援専門員の皆様には少しわかりにくいところとなっているのかなというふうに思いますので、今後、ケアマネジャーも含め、何故このように捉えておられるのかについて分析させて頂けたらと思っております。

会長 ありがとうございます。28 ページの統計の増えたように見えるところは、無回答の割合を全部消して統計を出せば、比較はできると思うんですけども、委員の方から質問があったように、具体的に何が不安なのか、比較する方が良いと思いますので、よかったですら次回、もう少し比較できるようしてもらえたらと思います。

委員 すいません。質問というより、29 ページの資料にありますところの介護支援専門員の調査結果概要のところですが、ここの介護支援専門員で今後も働きたいかっていうのを見た時に、「働きたい」がほぼ半減しているっていうことで、何故「働きたくない」人がこれだけ増えたのかっていうのは、この右の事務量が多いという羅列してあるところ、31 ページのところですね、業務外支援が非常に多いということを含めて、受診同行とかも本来ケアマネジャーがすることではない事をされているわけですけども、先ほどの資料2でもありますように、認定率はどんどん介護サービスを受けようとする方が増えていく。その中で入口であったり、その介護サービス自体を作るケアマネジャーになりたくないっていう方がどんどん増えてくるということは、今後、当

市においてもどのように介護サービスを提供するのかということについて非常に困難を極めてくると思えます。なので、即解決できるようなことではないかと思えます、全国で言われていることだと思いますが、ここに書いてあるような様々な一歩が全部ってというのは無理だと思いますので、その内の何か一つをどのように解決するのか、ケアマネジャー1人では解決できませんので、事業所であるとか市が連携してこの負担というのを取り除いていかないと、どんどん手がなくなって行って、結果、今、認定員も足りない、担当するケアマネジャーもいないということが加速化していくと、どんどん支援することができないというふうになりますので、それについて施策についての検討があるのかお聞きしたいです。

会長 どうでしょう。事務局の方、ありますか。

事務局 ご質問ありがとうございます。おっしゃられたようになかなかすぐに何かこれをすれば良いという特効薬があるわけではないのが実情ですけれども、ケアマネジャーが色んな手続きを介護保険課でもして頂く現状があります。それは国の方でも考えているところですが、DXの推進ということで、電子申請がこれからどんどん進んでいくと言われており、今、ケアマネジャーが開示情報の取得に窓口に来られて、契約される利用者の方の認定審査会情報のコピーを取って、それを見て、という手続きがゆくゆくはそれをしなくても、インターネット上のクラウドの中で情報を受けて、そこでケアプランに反映させたり、入力をしなくてもそのデータがそれぞれの事業所の必要なところに入っていくということが近年進んでいき、そういった部分での業務量の軽減は進んでいくことが一つあります。ただ、おっしゃられている介護保険業務外で担われている部分を誰がするのかというのは全国的にも今課題として、予想ですけれども、なかなか難しい問題であると思っています。

会長 ありがとうございます。よろしかったでしょうか。ケアマネジャーは制度が出来た時は凄く大人気で、私らも学生からよく、この仕事に就いたわって報告を受け、この仕事を目指して介護の仕事をしてステップアップしたらというようなことを言っていたのですが、過去の話になったのかなという気はいたします。あと他にも、研修会と継続更新とかの講習の負担が大きいとかっていうのもあたりしますので、それを受けやすいような体制作りとか、そこのサポートっていう点ではできないわけでもないと思いますので、そういうことも含めて出来る事を検討、是非お願いしたいなと思います。このアンケートも、負担軽減とか、働きたいと思う人を増やす意味で取り組んでもらっていると思いますので、またよろしくお願い致します。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員 すいません、よろしくお願い致します。資料の5、19ページの成年後見制度の認知の部分で、この資料を見ていくと基本的に3年前のアンケートから大きく変化はないっていう説明がありましたが、一応計画というか、資料2の取り組み状況の中では、啓発活動とかを今後も引き続きということで、僕もケアマネジャーをしています、この制度はあまり知っている方がおられなくて、どっちかというとな本当に必要になってから説明するのはかなり難しいなというのは常に感じているので、啓発活動をどういう形でやっているのかちょっとわからないんですけど、して頂けたらなと思います。あとはさっきのケアマネジャーの「働きたい」っていう方が減っていることが、ただただ残念です。

会長 ありがとうございます。これはもうこのままでよろしいでしょうか。ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

委員 はい、すみません。ACP編成会議については、いつも凄く低いままなので、後見人制度と同じで、これも一緒に啓発されていったらどうかなと思います。

会長 はい。13ページのところですね。私も低いな、と思いました。前回調査の時は私も

知らなかったのですが、以前より授業などでも話す機会が増えてきているので増えたと思っていました。こちらも成年後見と合わせてやれる部分かと思えますので、やる時に是非一つ、絡めて頂ければと思います。はい、ではその他、いかがでしょうか。

(質問等無し)

会長

よろしいでしょうか。では一旦次に進ませてもらおうと思います。では、資料 6、近江八幡介護以外の事業所介護調査案につきまして、こちら JMC 株式会社様より説明をお願い致します。

JMC

はい、資料 6 の方をご覧頂けますでしょうか。資料 6 をご覧ください。少しアンケートの話を含ませて頂いて申し訳ないんですけど、まず、この計画策定の資料といえますか、計画を今後考えるために全体としては 5 種類の調査を予定しておりまして、今日ご報告したのが 3 種類ありまして、4 種類目につきましては、今度この春に行うということになっております。5 種類目のことについてはこちらの協議会でまだご説明することがなかったもので、その 5 種類目の調査についてまずご説明させて頂きたいと思えます。資料 6 の上、アンケート調査の概要ということで、大きく分けますと、高齢者の方ご本人と家族を含む高齢者の方ご本人に関する状況について把握する調査というのがニーズ調査と在宅介護実態調査になりまして、一方で、担い手の方の現状ですとか、もう少し新たな展開を検討するために実施するのがケアマネジャーの調査、それから介護事業所に関する調査、最後に介護以外の事業所に対する調査になっております。介護の事業所調査につきましては、前回こちらの協議会で調査票を皆様にもご検討頂いたところですが、この 5 種類目の介護以外の事業所に対する調査についても、今、企画をしているところでございます。この介護以外の事業所の調査の概要について簡単にご説明させて頂きます。まず、対象は、近江八幡市内の事業所 1,700 件程ということで、商工会議所等を通じての配布を検討しております。調査期間は来年度の 5～6 月頃を予定しているところですが、目的としては、一つは高齢者の就労に関する事業所の状況、意向の把握になります。先ほどのニーズ調査の方で、データをご紹介は出来なかったのですが、自立の方は社会参加の一つとして就労することが一つ大きな事としてありまして、また、今就労していなくても、今後就労したいという方は、自立の方で 3 割ぐらいいらっしゃるという結果でした。さらに、就労したいという方の中で一般就労なのか、シルバー人材センターでの就労なのかについてお聞きしたところ、一般就労の方が多いという結果としてありまして、逆に事業所の方での高齢者の方の就労の受け入れっていうのをどう思っているのか、どういうところが課題と思っているのか、そういったところについての意向を把握すること。二つ目は、商助の取り組みが近江八幡市における特異的な取り組みなんですけれども、その取り組みに関する状況や意向の把握っていったところをもう少し広げていけないか、お伺いできればと二つを目的に調査項目の方を考えているところです。ニーズ調査などは国から色々と示されて決められた質問項目もあるんですけど、この調査は完全に近江八幡市独自の調査で、そういったところを考えているところになります。調査項目につきましては、次回のこちらの協議会の時にまたご意見を頂ければと思っているところです。こういった調査を企画している調査の全体像と、介護以外の事業所の調査の概要についてご説明させて頂きました。私からは以上です。

会長

はい。ありがとうございます。只今、JMC 株式会社様から説明して頂きましたけれども、こちらのアンケート調査につきましてご質問等ございましたらお願いしたいと思えます。いかがでしょうか。

副会長

一点、今後、中身についてこれでいいかということで行くと、地域の高齢社会の中における高齢者の方に対するの企業としての取り組みとかですね、地域貢献的な事業への関心度みたいなものっていうのも、これらのささえあい商助推進会議の取り組みに関する状況把握とはなっているんですけど、もう少し広げてもいいんじゃないかなっていう感じですね。先ほども言ったように商助の部分がやっばどこまでの何を指して

いるのかっていうのは、どうしてもわかりづらいところがあります。そうすると企業として地域貢献としてとか、地域等協働して何か取り組むような意識があるかどうか、ということですね。場合によっては自分の企業の会議室とか、公助、地域の方々に貸し出したいとか、地域の活動に社員を参加させたい、それで地域と連携を図っていききたいんだっていうような思いも含めた把握の方が広がっていくんじゃないかなっていうふうに感じます。以上です。

会長

ありがとうございます。こちらも参考にお願いしたいと思います。20 ページのところアンケートあるんですが「知らない」が 86.5 とか 75.2 ということでしたら、多分アンケートを取ってもらう時に商助とはこういうことですのでっていうね。そこをわかりやすくアンケートを送る時に付け加えてもらえれば答えが出やすくなると思いますので、また検討をお願い致します。その他いかがでしょうか。

委員

すいません、またアンケート調査をして頂けるということですが、正直、沢山のアンケートをケアマネジャーにして頂いて、私はこういう会議にも出さしてもらっていて、しっかり聞いてくださって分析して頂けるんだなという思いでおりますが、うちの事務所のケアマネジャーが殆ど「またアンケート？」みたいな感じでおります。アンケート自体が目的になってしまっただけではいけないと思いますし、委員の方々からも色々とその結果を受けて分析をされて、今後それに向けて何をやるかというのが大事だと思います。ケアマネジャーのことも先ほどおっしゃって頂いて、課題が山積していると思いますが、ケアマネジャーとして 1 人で意見を言わさしてもらっても力が無いので、ケアマネジャーとして職能団体やそれぞれの団体での意見を言っていないといけないですし、行政ともしっかりしなきゃいけないなと思います。あと、AI とかでケアマネジャーの負担が軽減された分をしっかりと利用者や家族に、人にしかできない事に向き合える環境を作っていって頂ければと思います。この商工会議所との介護の商助のことにしても、自分もケアマネジャーの事業所兼、何か商助というところで、別の地域の方が気軽に集まっていたりするようなカフェのようなものを併設できるような事業もやっていきたいという想いがありますが、そういったことを実現していけるような、想いを形にできる近江八幡市であってほしいと思いますので、アンケートの方も色々考えてまた分析して頂けたらありがたいです。

会長

ありがとうございます、よろしくお願い致します。結構、今回の取り組み、アンケートは事前にどういうことを事業者や従業者の方にお願ひするかってことも考えてお願ひしまして、本当にこちらがアンケートを取るだけではなくて、介護の現場とか、特に家族とか本人に少しでも良くなっていくという考えて作ったものですので、是非良い形でお願ひしてもらいたいなと思います。あと、今こうやって委員の方からご意見が出てくるとより良くしていくということですので出てきますので、委員の先生方、ここで言うて無駄になるということはないと思いますので是非、気付いた事とかこの場で、もしくは後で事務局に伝える形でも結構ですので、ご意見等ありましたらどんどん出してもらえればというふうに思います。結果としてそれが良い形になると思っていますので、せっかくお忙しいところ来て頂いているので、是非よろしくお願ひしたいと思います。その他、いかがでしょうか。

(質問等無し)

会長

では、ここでこちらの方は終わらせて頂こうと思います。それでは続きまして、次第の 3 「その他」に移らせて頂こうと思います。資料 7 「令和 8 年度総合介護支援協議会スケジュール」につきまして事務局から説明のほどよろしくお願ひ致します。

事務局

それでは資料 7 「令和 8 年度総合介護市民協議会のスケジュール案」について説明させていただきます。まず、訂正させていただきますのですが、右の方に令和 6 年で書いてしまっていますがこれは間違いで令和 9 年です。失礼致しました。一応、大まかな予定としましては資料の通りということで書かせて頂いておりますが、来年度は第 10 期総合

介護計画を策定する年度であることから、各会議の開催回数が少し多くなっております。総合介護市民協議会は第1回を5月ぐらいに予定しまして、そこから2ヶ月に1回ぐらいの頻度で計5回ほどの開催を予定しております。また、高齢者福祉部会は2回、医療連携部会は1回の開催を予定しておりますので、各会議における詳細な日程・議題等の内容につきましては、会議の開催に合わせまして随時案内させていただきます。皆様大変お忙しい中、大変恐縮ですけれども、日程調整を出来る限りご協力よろしくお願い致します。以上になります。

会長 はい。ありがとうございます。この件につきまして進め、あの質問等ありますでしょうか。

(質問等無し)

会長 こちらですけれども、スケジュールで来年度は本当に忙しくなるところで、委員の先生方はもちろんですし、部会の方も参加して頂いている先生方は特に大変かと思いますが、最終年度で追い込みの時になりますので、是非ご意見等を出して頂ければと思います。よろしくお願いします。事務局から説明がありました通り、今後のスケジュールはこちらの通りに予定をしております。各回における詳しい依頼については開催に合わせて説明して頂くことになっていると聞いておりますので、事務局の方もよろしくお願いします。日程も決まり次第また連絡させて頂くということで、なるべく早く調整が出来ればと思っております。

それでは、色々ありがとうございました。活発なご意見を出してもらえて、色んな事が明らかになり、方向性も出てくることも多かったと思いますので、どうもありがとうございました。では、事務局よろしくお願い致します。

事務局 会長ありがとうございました。本日の議事は全て終了いたしました。委員の皆様、最後まで熱心にご審議をいただきありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、副会長よりご挨拶をお願い致します。

副会長 皆さん、お疲れ様でございました。沢山のご意見頂きました。ただ、これからが10期計画に向けて8年度が非常に正念場になってくると思って、先ほども色んなアンケートとか、現状の問題点や課題というのが浮き彫りになってきているわけです。この中で行政だけではなく、同じ近江八幡市の中で色んな高齢者と関わる関係の方々でございます。自分たちがある意味、代表者としてそういった関係者の方からのご意見も吸い上げながら、言葉にして今後こういったことが大事じゃないとか、具体的にこんな事をしていくともう少し改善されるではないかといったような事をこの場で議論して発言していくことが、事業計画の中に盛り込まれていくきっかけになると思っています。ややもすると、アンケートの結果を各問を見ていくとどうしても高齢者の人口であったり世帯構造ですね、一人暮らし老々世帯が増えていく社会、認知症高齢者が増加する、後期高齢者が増えることによって増加する社会であると、今までとは少し違った形で取り組みを広げたり、組み直していかないと地域の中で支えていけるのかというところに来ているのだと思います。知恵と皆さんの現場の中でのそれぞれの取り組みの中で良いものを吸い上げて頂いて、この場で発言をして頂いて、行政と一体になって取り組んでいく計画作りが進んでいくと良いかなと思っておりますので、また忌憚のないご意見を来期に向けて一緒に考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。本日はお疲れ様でございました、以上です。

事務局 ありがとうございます。それでは、これをもちまして令和7年度第2回総合介護市民協議会を閉会いたします。お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。ありがとうございます。